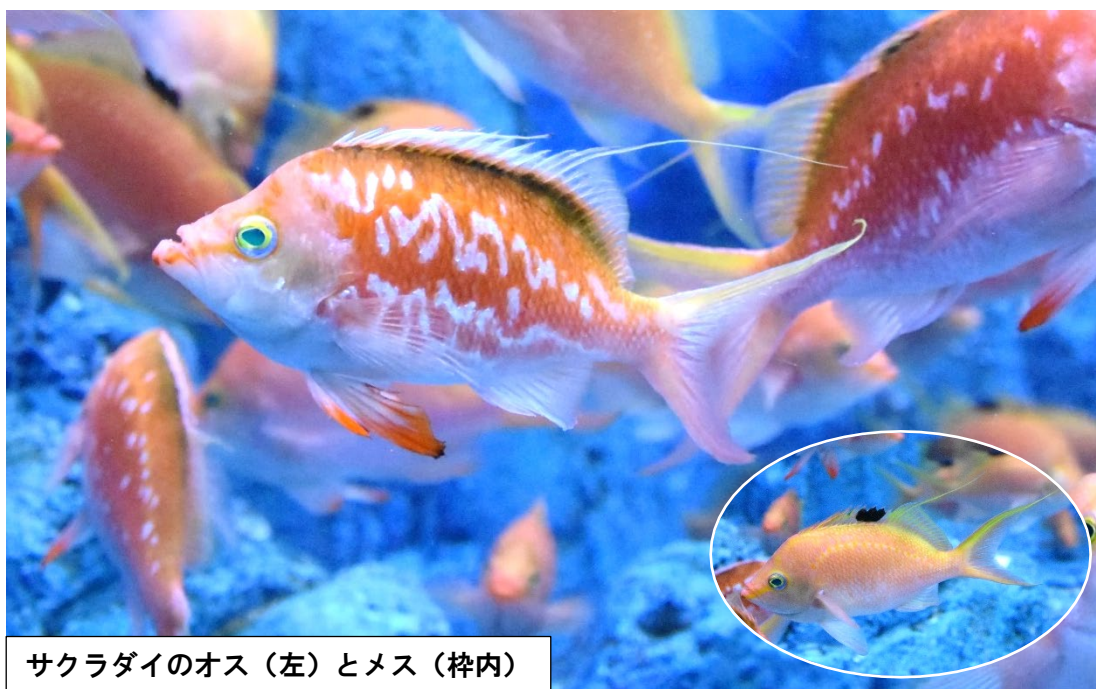


今月の  
いいね!

## 海の中に咲く桜 ーサクラダイー



サクラダイのオス（左）とメス（枠内）

### 【名前】

サクラダイ（スズキ目ハタ科）

### 【すむ場所】

兵庫県以西の日本海沿岸、茨城県以南の沿岸

### 【大きさ】

全長 15 cmほどになる

### 【当館で見られる場所】

駿河湾の生きもの

### 【特ちょう】

沿岸の水深 10~110mの岩礁域に暮らし、小型のエビなどをエサとする。性転換する魚としても知られており、メスからオスになると体の模様も変化する。

### 【担当学芸員から一言】

アジやマダイなどの船釣りで外道として釣れることもあります。オスもメスもきれいな魚で、海外でも観賞魚として人気があります。(Y.I)

## トピック

## 資料の整理

博物館では数多くの資料を保管しています。資料は展示や調査研究に使用するのはもちろん、研究結果を示す証拠として保存しておくことが重要です。例えば標本などは棚に分類順に並べて、識別のための番号や種類名が記されたラベルをつけます。必要な時にすぐに取り出すことができ、研究での使用や研究結果の確認ができるようになっています。

資料を長期間保管するためには、気をつけなければならないことがあります。使用している薬品の交換を行い、資料が腐らないようにしたり、破損しないように保護したりすることが必要です。資料をいつまでも状態良く保管し、常に展示や調査・研究に使えるように整理しておくことも博物館の重要な役割の一つなのです。(S.T)



資料を保管している棚

## 発見！体が切れたコノハミドリガイ



コノハミドリガイ



体が切れたコノハミドリガイ

2021年に奈良女子大学の研究グループによって、あるウミウシが体を自切（体の一部を自ら切り捨てる現象）することが発見されました。トカゲのしっぽのようにすぐ自切するわけではないですが、頭部をひもでしばると1日ほどで体が切れ、その後数週間かけて再生します。このウミウシはコノハミドリガイ *Elysia marginata* と言い、全長4cmほどの小型のウミウシで、インド洋～西太平洋に広く分布しています。

当館がある静岡市三保周辺の海でも普通に観察できますが、2023年秋頃からは例年に比べて多くの個体が見られました。その後も観察していると、偶然にも2024年1月初旬に体がほとんどない個体（左下の写真）を発見しました。実際に体が切れている個体が自然界にいるのだと、非常に驚きました。

自切の理由は、同じ現象が発見されたクロミドリガイでは「体内の寄生虫を取り除くため」と考えられています。コノハミドリガイも同じ可能性はありますが、海で観察していると疑問も残ります。なぜならば、定期的に潜るたびに本種を探し、昨年の秋から春までに多くの個体を観察したものの、体の切れた個体と出会ったのはこの1回だけだったのです。これほど自切する個体の割合が低いのに関わらず、なぜこのようなシステムを持っているのか？また本当に寄生虫を取り除くためだけなのか？不思議でなりません。

海には多様な生物が工夫しながら生きています。分からないことがまだまだ沢山あり、好奇心がかき立てられます。(F.N)

## 駿河湾で採集されたトリカジカ

今年の2月、当館が深海生物の採集でお世話になっている漁師さんからトリカジカ *Ereunias grallator* をいただきました。本種は日本では青森県から沖縄県（ただし日本海沿岸を除く）、国外では台湾近海の水深200～1000mに生息しており、今回は駿河湾の水深約800mに仕掛けたカニかごで採集されました。

一般的には全く無名？なトリカジカですが、新種として発表されたのは明治34年と古く、すでに120年以上が経っています。東京帝国大学の箕作佳吉（みつくりかきち）博士が入手した相模湾産の2標本に基づき、米国スタンフォード大学のD. S. Jordan博士とJ. O. Snyder博士が論文を書きました。本種の形態はタイヤアジなどの見慣れた魚とは大きく異なっており、大きな頭に対して体は後方へと急に細くなり、胸びれの下部が指のように割れているほか、腹びれもありません。これらを含む独特な形態からJordan博士らは、本種をトリカジカ属 *Ereunias* という新しいグループに分類し、以後、本属に追加された種はありません。

今回のトリカジカは、採集水深から考えて水温5℃で飼育しました。水槽内では低温のためほとんど動かず、指のような胸びれの一部を底に押し当てて、少し体を浮かせた状態でじっとしている姿が観察できました。残念ながら、この個体は先日死亡してしまいましたが、今後は標本として研究などに役立つ予定です。(S.T)



大きな目がかわいいトリカジカ



矢印部分：指のように割れている胸びれ

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。